豊玉二中だより

平成２９年度　　第３号
発行日　６月８日（木）
練馬区立豊玉第二中学校
校　長　　中　山　　徹

「協力する心、支え合う心」

副校長　　大熊　恵子

本番２週間前から運動会の練習が始まりました。校庭では、各学年でクラスごとに何回跳べたのかを競う「大縄跳び」の練習の声が飛び交いました。

昨年は毎日懸命に練習を繰り返したのにもかかわらず、１年生が運動会２日前まで「いーち」「いーち」・・・という状況で、生徒、先生、だけでなく主事も一緒に考えアイデアを出したこと、『１回でもいいので跳べますように』と祈る気持ちで迎えた運動会当日、集中して跳ぶことができ１０回以上跳べたときに、感動で涙が出てきたことを思い出しました。

今年はどうだったでしょうか？　「いーち、にーい。」「もう一度！」「いーち、にーい、さーん」。どのクラスも０回ということはない状態でのスタートでした。ホッとしました。目の前にある「すべきこと」に前向きに取り組む姿勢や態度をもっている豊玉第二中学校の生徒たちの懸命の練習で、大縄跳びは上達していきました。

さて、運動会当日を迎えました。

「せーの」と音頭を取り、縄を回し始めた大縄跳び。「いーち、にーい、さーん、・・・」会場内の全員が注目する中、リズムよく、集中して飛び続けました。『最後の１秒も無駄にせず、１回でも多く跳ぶぞ！』というオーラに校庭全体が包まれる中、「ひゃーく、ひゃーくいーち、ひゃーくに、ひゃーくさん、・・・」とうとう百回を超えるスコアが出ました。敵味方なしにその記録に感動し、声援がこだましました。ここが豊玉二中生のよいところだと感じます。心が温かい。

学年が上がり、心と身体が成長し体力も向上した生徒たちですが、大縄跳びの経験が長い３年生でも、長時間のジャンプはやはりしんどいもの。後半からうまくタイミングが合わなくなってきた友達に声をかけ、支えながら跳ぶ姿が今年もありました。辛いときは黙りがちですが、「集中して！」「がんばろう！」など、どのクラスもお互いを励まし合い、声を掛け合って精一杯跳んでいました。

協力する心や支え合う心が、本校生徒に、さらに着実に育っていることを実感しました。

最後に、生徒会役員の活躍を紹介します。全生徒が楽しく参加できる「生徒会種目の新設」を、昨年から今年にかけて生徒会で検討しました。全校生徒へのアンケートや生徒会での話し合いを重ね、「追っかけ綱引き」がプログラムに加わり、楽しく実施することができました。また、小中連携競技「綱引き」では、小中一貫プログラムの一つである小学生の登校日に、生徒会役員が小学５年生と６年生に直接参加を呼びかけました。その甲斐あって小学生の参加が昨年の２倍になりました。

教職員が日々実践している「心を育てる教育」や「前向きに取り組む姿勢の育成」がひとつの形として現れたのだと思いました。